

姫路城・姫路藩等所縁 屋台装飾 調査報告書



(項 目)	(頁)
1、はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・	2
2、事務局から提出したパブリックコメント・・・・・・・・	3
3、過去に提出した提案書等・・・・・・・・	4
4、姫路城・姫路藩等所縁 屋台装飾 調査報告・・	5～12
5、参考－過去に当会が行った事業・活動・・	13～19
6、おわりに・・・・・・・・	19

平成30年(2018)4月20日

屋台文化保存連絡会

1. はじめに

平成8年(1996)、存亡の岐路に立つ播州彫刻の保存・復興を目的として、(社)姫路青年会議所が「播州祭・屋台文化」保存継承活動を開始し、2年後の平成10年(1998)には、姫路市内外50自治会を結集し大会が発足した。

その後数多の展示会や会報・ポスターの発行、ホームページの運営はもとより、祭・屋台装飾品の寄贈・寄託支援事業に加え、姫路市のご支援を得ながら職人方にご協力戴きミニチュア屋台を完成させ、その供用事業も推進し、究極の目標である『播州屋台会館(仮称)』の早期建設に向けて幅広い活動を展開して来た。

わけても平成15年10月7日には、姫路市民109,442名もの署名を添え「『播州屋台会館(仮称)』早期建設 提案書」を石見利勝市長に提出した。その後も市議会議員懇談会を複数回開催し、有志議員の姫路市議会での関連質問に繋げ、行政当局にも全国各地の同様施設調査に乗り出して戴いた。

また当時、声掛けすればどれ位の屋台装飾品が蒐集出来るか調べて欲しいとの姫路市からの依頼に応え、平成19年4月12日に「[寄贈・寄託・貸出]物件聴き取り調査結果からの考察」を、加えて平成20年には、姫路菓子博に於いて祭り関連の事業を打って欲しいとの姫路市からの強い要請を受け、「匠の技ー播州祭り屋台伝承展」を開催すると共に、3,357枚もの回収したアンケート結果を考察し、7月26日に石田哲也姫路市市長公室長に提出し説明した。

そして平成27年「姫路城跡中曲輪施設整備方針(素案)」が姫路市から発表されたのを機に、当該施設、所謂「姫路城ミュージアム(仮称)」に『播州屋台会館(仮称)』を一定以上の規模をもって、内設・併設する事を目指し、平成28・29年と2度に亘り、姫路城・姫路藩等と屋台装飾との関連聴き取り調査を当会々員地区に行い、姫路市教育委員会殿にもご協力戴いた内容が此度纏まったので、「姫路城・姫路藩等所縁 屋台装飾 調査報告書」として提出する。

尚、上記(素案)に関するパブリックコメント公募に対して、当会事務局から提出したものを参考として後掲する。

また、姫路青年会議所時代から22年間の主だった活動・事業も付記した。

2. 事務局から提出したパブリックコメント(平成27年6月3日)

意見提出用紙			
「姫路城跡中曲輪施設整備方針(素案)」に対する意見			
住所(所在地)			
氏名(名称)		電話番号	
市外にお住まいの方は勤務先、学校名、納税義務又は利害関係を有する旨のいずれかの事項			
【意見】			
1. 素案の目的に、文化観光の振興や賑いの創出に繋がる都市機能の充実とあり、方針には、歴史文化の学習・啓発施設等を整備すると謳われており、文化観光拠点施設が不可欠とされている。			
2. そしてその施設の機能として、城郭関連のみならず、郷土史関連等の展示・学習機能(文化財の保存継承の意義の普及・啓発)や、情報発信機能(姫路市及び播磨の文化観光の案内)も含まれており、両機能を複合した「姫路城ミュージアム」の導入が求められると結論づけられている。			
3. 私が事務局を務める屋台文化保存連絡会は、平成15年10月7日、姫路青年会議所と連名で石見市長に対し、109,442名の署名を添え『播州屋台会館(仮称)』早期建設 提案書』を提出しているが、そのコンセプトに、(1)播州固有文化に常に触れる事を通して地域コミュニティの継承・創造・形成に資する施設(2)播州固有文化を常に情報発信出来る施設(3)播州固有文化の保存(研究)・継承の施設を掲げており、今回姫路市が導入されようとする「姫路城ミュージアム」の機能に合致するものと考えます。			
4. 従って、「姫路城ミュージアム」に相当規模を有する『播州屋台会館(仮称)』を内設する事を、本パブリックコメントの主意見として提言申し上げます。			
5. 加えて、『播州屋台会館(仮称)』早期建設 提案書』に於いて、上記コンセプトを具現化する方法として、屋台・棺桶の実物展示、目で耳で身体で祭りをを感じる体験型展示、青少年の健全育成を視野に入れた播州彫刻を始めとする固有文化保存・継承展示(屋保連として現在53件の寄贈・寄託物件を保有)及び実演展示等を掲げ、展示展開を図る必要があるとしている事から、その建設地としては姫路市が候補として挙げている3箇所の内、最も敷地面積の大きい「大手門駐車場」が最適である事を申し添える。			
※ご記入いただいた個人情報、この市民意見の募集以外の目的では利用しません。			
<締切り> 平成27年6月30日(火) 必着			
<送付先> 〒670-8501 姫路市安田四丁目1番地/姫路市 市長公室 企画政策推進室			
<FAX> 079-221-2384 <E-mail> hime-gc@city.himeji.hyogo.jp			

この他、当会事務局が把握しているだけでも屋保連関係者からの15通をはじめ、市民から実に42通142件にもものぼる意見が寄せられた。

この数字はパブリックコメントに寄せられる数字としては驚異的であり、行政には必ずやこれに応えて戴けるものと確信する。

3. 過去に提出した提案書等

(1) 平成15年10月7日『播州屋台会館(仮称)』早期建設 提案書



石見利勝姫路市長(右)に提案書を手渡す(左)糴川英毅・社団法人姫路青年会議所理事長(当時)と(中)大西壬・屋台文化保存連絡会代表幹事(当時)

屋台文化保存連絡会・(社)姫路青年会議所連名で、108,584名分(最終的には109,442名分)の「署名簿」を添えて、石見利勝姫路市長へ提出。

提案の背景・経緯、コンセプト、展示概要、候補地、名称、推進・実行管理、寄贈・寄託、まとめの8章、A4版15頁にわたる提案書。

(2) 平成19年4月12日 [寄贈・寄託・貸出]物件聴き取り調査結果からの考察



当会会員地区に対し、平成18年9月6日～11月30日の間にを行った「寄贈・寄託・貸出物件聴き取り調査」に基づき纏めたもので、石田哲也姫路市企画財政局長(当時)に提出した。考察にあたっての展示品前提、考察の方法、各広場別考察、まとめの4章、A4版7頁からなる考察書。

彫刻・縫物・鍔金具・構造・蒲団屋台・伊達網・房・隅紋からミニチュア屋台・播州祭礼玩具にまで亘り調査し、寄贈154点・寄託47点・貸出421点の合計622点の提供が可能であり、「播州屋台会館(仮称)」建設後の展示展開に充分に耐え得ると答申した。

(3) 平成20年7月25日「匠の技－播州祭り屋台伝承展」アンケート結果と考察



姫路市からの強い要請に基づき、姫路菓子博2008に於いて開催した「匠の技－播州祭り屋台伝承展」の来場者に対して行ったアンケート(回収3,357枚)を纏め、平成20年7月16日の(社)姫路青年会議所の例会で発表し同月25日に石田哲也姫路市市長公室長(当時)に報告し、石見利勝市長にお届け戴いた。

「どちらから来られましたか?(市内・県内・県外)」・「本展示会の他にどこかに行かれましたか? 予定ですか?」・「性別・年齢は?」・どの展

示が一番印象に残りましたか?(彫刻・刺繍・鍔金具・その他)」・「本展示会の何倍もの規模の有料常設展示施設＝播州屋台会館(仮称)があれば、訪れたいと思われませんか?(300円・500円・700円・1000円・思わない)」・播州屋台会館(仮称)にこんな要素・コーナーがあれば良いのに!と思われるもの」の6つの設問からなり、それを32ものグラフに纏め、過去の展示会との来場者比較・曜日別来場者比較・イベント有無による来場者比較や、展示会前後の来場者の流れ・動線にまでをも考察したA4版15頁に及ぶ大レポート。

4. 「姫路城・姫路藩等所縁 屋台装飾 報告」

(1) 姫路城

元弘3年(1333)頃、当時は城ではなく赤松則村(円心)が砦を姫山というところに築いた。その後、二男・貞範が城に改修した。その後、整備や改修が繰り返され、関ヶ原合戦の戦功で播磨国を与えられた池田輝政が大改修。更に、本多忠政が増築・整備し現在の姫路城が完成した。

姫路城そのものが屋台装飾に使われているケースは極めて稀でこの2例。

① 恵美酒宮天満神社／北細江／水切金具／姫路城之景



② 英賀神社／附城／井筒通金具／姫路城



(2) 姫路城所縁 (奈良時代)

姫路城そのものが意匠されたものは少なくとも、姫路城所縁(ゆかり)のものは数多くある。古くは奈良時代に関するものからある。

① 魚吹八幡神社／坂出／狭間／魚吹八幡神社 武神祭 鬼舞の場



天平宝字7年(763)、新羅が播磨灘に攻め寄せた時、藤原貞国がこれを討ち果たした。江戸中期の地誌によると、初めて姫路に城を築いたのが貞国と云う。天平宝字8年(764)、異賊退治の時に初めて築かれ、以後代々受け継がれて来た云う。魚吹八幡神社武神祭に登場する五色の鬼は貞国を助けた事に由来する。

(3) 姫路城所縁のもの (戦国時代／黒田官兵衛)

2016年のNHK大河ドラマ「軍師官兵衛」は大人気を博したが、主人公・黒田官兵衛は、姫路城で生まれた事が分かっている。官兵衛所縁の屋台装飾品は、集客の上で重要な展示アイテムである。

① 松原八幡神社／妻鹿／高欄掛

黒田官兵衛の初陣	職隆・官兵衛親子	母里太兵衛
		
播州平定の後、豊臣秀吉は松原八幡神社を城南・芝原へ移す様命じしたが、当地は由緒ある地であるとして存続を懇願したのが官兵衛と言われている。天正12年(1584)、神社復興の際、官兵衛が拝殿を寄進したと伝えられる。 姫路城代の黒田職隆は嫡男の官兵衛に家督を譲り、隠居城として妻鹿の国府城に移った。官兵衛も又、中国征伐の拠点と三本城と考えていた秀吉に対し、陸路と海路の要である姫路城を譲り自身も国府山城に移った。職隆の廟が妻鹿町内にあり祀られている。 母里太兵衛は妻鹿の出身で槍術に優れ、「黒田二十四騎」の中でも「黒田八虎」の一人に数えられた勇将。信長に謀反を起こした荒本村重により有岡城に幽閉された官兵衛の救出にあたった。大盃の酒を飲み干して、福島正則から自慢の槍を貰い受け「黒田節」の基となった逸話でも知られる。		

② 甲八幡神社／黒田／狭間／石垣原の合戦

栗山善助・母里太兵衛・井上九郎右衛門は、慶長5年(1600)の関ヶ原の戦いの際には官兵衛と共に豊前国中津におり、九郎右衛門は石垣原の戦いで武功を挙げる。関ヶ原の戦いに乗じた「石垣原の戦い」で官兵衛は、天下獲りの野望のため私兵を雇い、表向きは九州の西軍討伐を掲げ挙兵したと言われる。

(4) 姫路城所縁 (戦国時代)

黒田官兵衛以外での戦国時代の主役は、なんと言っても豊臣秀吉。姫路城は中国大返しの拠点となつたし、意外にも伏見桃山城と姫路城とは大きな縁(えにし)がある。

① 荒川神社／岡田／狭間／中国大返し


天正10年(1582)6月2日、本能寺の変により信長落命。毛利攻めの真っ只中秀吉は陣払い姫路城に帰還する。秀吉は姫路城に蓄えてあった金銀と兵糧とをすべて兵士たちに分け与える。そして主君の弔いを大義にかかげ、光秀討伐のため、合戦の地・山崎までの五十里を5日間で駆け抜けた。所謂「中国大返し」である。

② 魚吹八幡神社／和久／狭間／桃山御殿

	関白秀次の家臣・本村常陸介より、太閤暗殺の命を受け、伏見城に忍び入った石川五右衛門が暗殺に失敗し、太閤の家臣・仙石権兵衛、薄田隼人正らに取り押さえられた。 千姫は徳川二代将軍・秀忠の姫君。豊臣秀頼に嫁したが大阪落城の時救出され、後に本多忠政の子・忠刻に再嫁した。元和3年(1617)忠政が姫路十五万石に転封。忠刻も千姫の化粧料として十万石を与えられ姫路に移住。忠刻と千姫は、西の丸に中書丸を、桐の門内に武蔵御殿を築き住んだ。これらの建物の多くは秀吉が築いた伏見桃山城を取り壊した用材で移築したものである。
---	--

③ 曾根天満宮／梅井／狭間／石川五右衛門の香炉取りも同様の場面を彫ったもの

(5) 姫路城所縁 (江戸時代)

江戸時代の姫路城所縁のものには、面白いものが見つかった。

① 松原ハ幡神社／ハ家／太鼓 (伝 姫路城登城太鼓)



元禄15年(1702)7月、姫路城主・本多忠国が登城太鼓として、摂津国渡辺村の太鼓屋又兵衛に作らせたものと云う。昭和31年(1956)、亀山本徳寺太鼓楼に置かれていた太鼓と交換したとも云われ、その通りならば逆に、現在の太鼓楼にある太鼓は、ハ家屋台で使われていた太鼓という事になる。

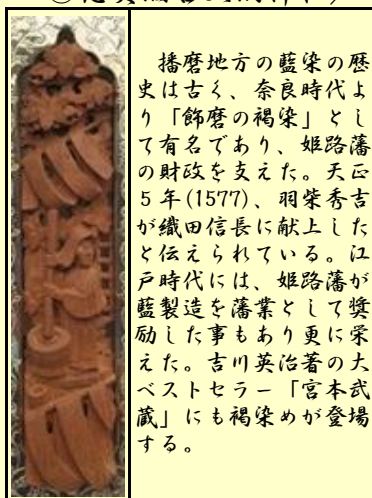
① 甲ハ幡神社／仁色／千姫の荷役奉仕風流「長持ち道中」

徳川家康の孫娘・千姫が本多忠刻に輿入れした時、仁色の氏子たちが花嫁道具を長持ちで運び、そのご褒美として二俣の長持ちを賜ったのが始まりと言われている。

(6) 姫路藩所縁 (江戸時代)

姫路城という“もの”に以外に、その姫路城を支えた姫路藩にも目を向ける必要がある。姫路藩が奨励した産業にまつわるものを見してみる。

① 恵美酒宮天満神社／北細江／総才端／褐染め(かちんぞめ)



播磨地方の藍染の歴史は古く、奈良時代より「錦磨の褐染」として有名であり、姫路藩の財政を支えた。天正5年(1577)、羽柴秀吉が織田信長に献上したと伝えられている。江戸時代には、姫路藩が藍製造を藩業として奨励した事もあり更に栄えた。吉川英治著の大ベストセラー「宮本武蔵」にも褐染めが登場する。

② 魚吹ハ幡神社／長松／太鼓

銘：安政六年 細工人 下和久村 治郎兵衛



③ 魚吹ハ幡神社／高田／太鼓

銘：慶應四歳辰三月 下和久村 太鼓屋細工人 吉三郎

④ 恵美酒宮天満神社 都倉／露盤 宮本武蔵

本多忠刻の剣道指南役を務め、姫路城天守最上階で妖怪退治したと伝えられている。守護神・刑部明神が姫の姿で現れ、銘刀・郷義弘を授けたと云われる。

姫路の皮革は姫路藩の重商政策の基に大きく発展。武具・衣料・祭礼用等があり、姫路革の耐久性と美しさとは他に類をみないと言われた。太鼓皮革もその産業の一部と言え、黒田長政が筑前国を与えられた慶長10年(1605)には早良郡に孫左衛門らが、前田利常の加賀藩には慶長11年(1606)に播磨屋左衛門五郎とその弟・治郎が招かれた。播磨屋左衛門の子孫が現在の石川県の浅野太鼓であり、浅野太鼓の需要は今もって播州地域に多い。

(7) 絵馬・絵巻物

姫路市内・近郊の神社等には多くの絵馬や絵巻物、また祭礼関係の古文書が残されている。これらは単に祭り風景を描いているのではない。当時の祭礼に於いては、毎年必ずその進行は勿論の事、屋台を出すについても「屋台献上願」等を、例えば江戸時代であれば、町の大年寄・村の大庄屋から町奉行・郡(こおり)奉行など藩の役所へ届け出でて裁可を受けて初めて齋行されるもので、そこに描かれているものは、当時の風流・風俗・習俗等を知る上で貴重な資料であると共に、風俗矯正等、民と藩(明治以降は官憲)との関係を知る上でも極めて貴重な文化財である。「播州屋台会館(仮称)」の展示展開の上で、決して欠かす事は出来ない。

尚、下記には明治以降、大正年間の物件も含んでいるが、明治以降も大日本帝国憲法統治下では、上記江戸時代の町奉行・郡奉行に役割を内務省の出先機関が担っており、実態を引き継いでいる事から一覽に含めた。

また今回の調査に当たっては、姫路市教育委員会様に多大なるご協力を賜った。

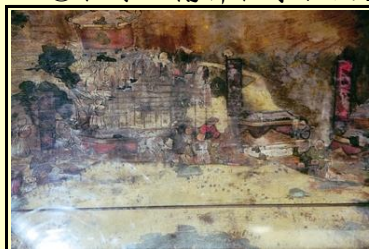
① 魚吹八幡神社祭礼図 [奉納：天保11年(1840) / 魚吹八幡神社 蔵]



網干塩浜の商人達が奉納した長大な絵馬。
本殿から御旅所迄の町中を進む神幸渡御行列の様子と群衆の姿など、祭りの熱気が力強く描かれている。
祭りの盛んな播磨地方にあって、この壮大な祭礼図絵馬は魚吹八幡神社氏子衆の祭りに懸ける心意気を示している。

【描かれている風流】 神樂太鼓・獅子・神輿太鼓・御坊乗壇尻・壇尻・相撲・相撲棧敷

② 松原八幡神社祭礼図 [奉納：嘉永4年(1851) / 松原八幡神社 蔵]



姫路市内最大級の絵馬で、「八幡宮御神事御規式定」に定められた祭礼様式が極めて丹念且つ写實的に描かれている。

願文や画家の雅号・落款、制作年月日等の記載が無いが、唯願裏の棧に「嘉永四歳亥六月中旬 御宮大工棟梁 岡本勘左衛門近侍 勘治良」と墨書されている事から、嘉永4年に額装し奉納されたものと推定される(左)は絵馬の一部

【描かれている風流】 祭礼様式全般

③ 松原八幡宮祭礼絵巻 [天保～弘化年間 / 個人蔵]



松原八幡神社例大祭の神幸渡御行列の様子が詞書の趣旨通りに詳しく描かれている。

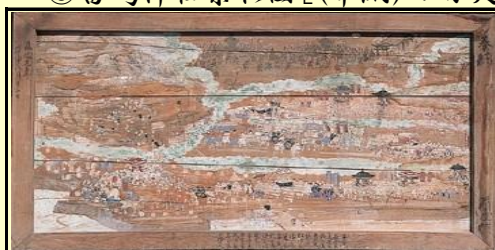
瓢堂長種の巻頭詞書により、茂松園玉朗(本場村住人)が平安仁清に描かせたものである事が判る。製作年号は記載されていないが、瓢堂長種が天保6年(1835)に小養塚を建てた宇佐崎村の俳人・石田五芳の弟である事から、天保後期～弘化年間に描かれたものと推定される。(左)は絵巻の一部

【描かれている風流】 流鏝馬・松原村傘鉾・獅子屋台・的板・御先太鼓・天童・神樂太鼓・雅樂・一ツ物・天童・本場村御迎提灯・本場獅子屋台・東山獅子屋台・妻鹿獅子屋台・八幡宮八家村獅子屋台・八家獅子屋台・寺領獅子屋台・本場神輿太鼓・松原二氏神輿太鼓・中村神輿太鼓・妻鹿西神輿太鼓・宇佐崎西神輿太鼓・宇佐崎中神輿太鼓・松原中神輿太鼓・宇佐崎東神輿太鼓・東山神輿太鼓・南八家神輿太鼓・妻鹿東神輿太鼓・北八家神輿太鼓・本場西丹鶴・御坊乗ダンジリ・宇佐崎丹鶴・本場東丹鶴・妻鹿丹鶴・八家丹鶴

④ 上之庄神社祭礼絵馬 [安政5年(1858)]

【描かれている風流】 神輿屋根型太鼓屋台

⑤ 富嶋神社祭礼図 [(奉納)：万延元年(1860) / 富嶋神社 蔵]



苅屋村が奉納したもの。

上部には満月の下、提燈を手にした氏子に護られた神輿が御旅所へと進む様子、左側には境内の参拝風景、そして中央と下段には、各村の幟・神輿・壇尻・屋台の巡行等、江戸後期の祭礼風景が丹念に描かれている。底を持つ布団屋根型屋台が確認出来、播州の屋台様式の変遷を窺い知る事が出来る。

⑥ 白鬚神社祭礼絵馬[明治13年(1880)]

【描かれている風流】 神輿屋根型太鼓屋台・檀尻

⑦ 林田八幡神社祭礼絵馬[明治14年(1881)]

【描かれている風流】 神輿屋根型太鼓屋台

⑧ 蒲田神社祭礼絵馬[明治18年(1885)]

【描かれている風流】 神輿屋根型太鼓屋台

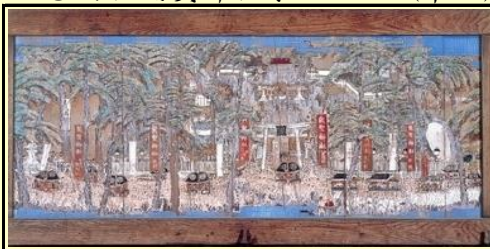
⑨ 佐良和大蔵神社祭礼絵馬[明治25年(1892)]

【描かれている風流】 神輿屋根型太鼓屋台

⑩ 水尾神社祭礼絵馬[明治26年(1893)]

【描かれている風流】 神輿屋根型太鼓屋台

⑪ 縣社英賀神社祭典之図[(奉納)：明治31年(1898)／英賀神社 蔵]



附城村により奉納されたもの。
 神殿・拝殿から門前に至る風景を俯瞰的に収め、宮入する屋台と、社名・村名を縫い取った緋色の大幟が林立する宮前での神輿・檀尻・屋台と祭典役員・練子や、それらを眺める観衆の姿等、祭礼の情景が賑々しく且つ躍動的に描かれている。

【描かれている風流】 神輿屋根型太鼓屋台・檀尻

- 8 -

⑫ 荒川神社祭礼図[(奉納)：(奉納)：大正10年(1921)／荒川神社 蔵]



大工：小河善四郎(姫路市野里大小路町)
 画工：高橋太吉(町坪)

拝殿改築記念に奉納されたもの。
 屋台が威勢良く参道を登る様子や拝殿での屋台練り、紋付袴に帽子姿の役員や白い上下の着衣の上から締め込みをした練子、祭りを楽しむ老若男女等、当時の祭礼の情景が詳細に描かれている。
 伊達網で飾る屋台が大半を占める中、四隅に房を施した屋台や、大幟の後方で囃すシデ持の姿に荒川神社秋季例大祭の変遷が偲ばれる。

【描かれている風流】 神輿屋根型太鼓屋台・蒲団屋根型太鼓屋台

⑬ 五霊天神社祭礼絵馬[明治年間]

【描かれている風流】 神輿屋根型太鼓屋台

⑭ 湊神社祭礼絵馬[未詳]

【描かれている風流】 神輿屋根型太鼓屋台

⑮ 上大野大蔵神社祭礼絵馬[未詳]

【描かれている風流】 神輿屋根型太鼓屋台

(7) 古文書類

姫路市内・近郊の神社等には多くの絵馬や絵巻物、また祭礼関係の古文書が残されている。これらは単に祭り風景を描いているのではない。当時の祭礼は必ずその進行その他を、例えば江戸時代であれば、町の大年寄・村の大庄屋から町奉行・郡(ごおり)奉行など藩の役所へ届け出でて裁可を受けて初めて齋行されるもので、そこに描かれているものは、当時の風流・風俗・習俗等を知る上で貴重な資料であると共に、風俗矯正等、民と藩(明治以降は官憲)との関係を知る上でも極めて貴重な文化財である。「播州屋台会館(仮称)」の展示展開の上で、決して欠かす事は出来ない。

尚、下記には明治以降、大正年間の物件も含んでいるが、明治以降も大日本帝国憲法統治下では、上記江戸時代の町奉行・郡奉行に役割を内務省の出先機関が担っており、実態を引き継いでいる事から一覽に含めた。

また本報告書に挙げたのは現存しているもののごく一部である事と、今回の調査に当たって、姫路市教育委員会様に絶大なるご協力を賜った事を申し添える。

①松原ハ幡神社関連

A. 松原山ハ正寺九月十五日神事軌式之亀鏡

[灘の松原自治会 蔵／応永3年(1396) - (写)江戸時代]

[描かれている風流概略] 一ツ物・天童・流鏑馬

B. 本庭記

[出展・引用: 恋乃浜藻塩乃郷／元文3年(1738)]

[描かれている風流概略] 「祭礼は当国一、二に取らず…」

C. ハ幡宮御神事規式定

[出展・引用: 恋乃浜藻塩乃郷／宝暦8年(1758)]

[描かれている風流概略] 獅子・練り物(丹鶴=ゲンジリ・神輿太鼓=屋台)

D. 九月祭礼三ヶ村神役人孫四郎勤前之事

[出展・引用: 恋乃浜藻塩乃郷／天明2年(1782)]

[描かれている風流概略] 流鏑馬的立

②魚吹ハ幡神社関連

A. 神護寺文書

[健治2年(1276)／永仁2年(1298)]

[記載されている風流概略] ハ幡宮相撲浴衣布・相撲給米／相撲給米

B. 貞閑禅尼自筆記

[元禄5年(1692)／不徹寺 蔵]

[記載されている風流概略] 津の宮ハまんのおやしろ・神事のねり物

C. 神輿太鼓請印帳(西土井村若者)

[出展・引用: 近世魚吹ハ幡神社関係資料(西土井自治会文書)／文政5年(1822)]

[記載されている風流概略] 当年豊作・神輿太鼓宮参

D. 一札(西土井村当天満村庄屋年寄)

[出展・引用: 近世魚吹ハ幡神社関係資料(天満自治会文書)／文政6年(1823)]

[記載されている風流概略] (西土井村) 失台

E. 一札(西土井村役人御中天満村)

[出展・引用: 近世魚吹ハ幡神社関係資料(天満自治会文書)／文政6年(1823)]

[記載されている風流概略] (西土井村) 台太鼓 社参

F. 寛(天満村御役人中西土井村庄屋年寄)

[出展・引用: 近世魚吹ハ幡神社関係資料(天満自治会文書)／文政6年(1823)]

[記載されている風流概略] 当村台太鼓

G. 福井庄津宮山魚吹寺ハ幡宮神事行司定

[出展・引用: 近世魚吹ハ幡神社関係資料／文政10年(1827)]

[記載されている風流概略] 御迎提燈・段尻・屋台・花角力

H. 乍恐御歎奉申上候口上

[出展・引用：近世魚吹八幡神社関係資料(天満自治会文書)／天保10年(1839)]

一例紹介

原文	
残段天台為御成嘩松先宮被上為御慎差之御文兩去 宮達満与召(村二出為候免候留翌上は村ル 出御村長仰出御原屋而し所成之処メ辰様口屋天 し聴東松付し出文台天仕成、下上、被年江偏台保 (之、中村、御役は与満候下御候宮翌為奉に村二 後儀依兩之天吟を口不村所、村悲段し年仰方屋御仕而祭 略御之町屋満味蒙偏國西、御之々御双付屋苦候喧礼)指以を台村之上呵花合屋神屋上御聴届御恐不残、付(節、 留来加之西上、)又台事台御歎届御指入、原、 被屋勢出町御、二々与行不赦奉ケ指相留相御依、 為台仕入之咎其二々長列残免申被留相御依、 不候二屋被後相喧長列残免申被留相御依、	乍恐御歎奉申上候口上 天満村 長松村 若者共

↓
内容

上記古文書の内容は、天保2年(1831)、天満と長松とが村境で喧嘩し、翌3年(1832)には屋台差し止め、翌々4年(1833)に許されて宮入を果たしたが、再び天満西屋台と長松屋台とが御神事行列先で喧嘩を始め、それに天満東・天満中屋台までもが加勢した事で、役人の出役を蒙り召し出し吟味の上、両村は同6年(1835)まで屋台練り出し禁止処分を受けた事などが記されている。

I. 寛(天満村長松村)

[出展・引用：近世魚吹八幡神社関係資料(天満自治会文書)／天保10年(1839){推定}]

[記載されている風流概略] 屋台之糺合

J. 吉美村年寄申状

[出展・引用：近世魚吹八幡神社関係資料(安積弘允家文書)／天保12年(1841)]

[記載されている風流概略] 壇尻・屋台

K. 一札之事(天満村一江嶋村惣代)

[出展・引用：近世魚吹八幡神社関係資料(天満自治会・大江嶋自治会文書)／天保13年(1842)]

[記載されている風流概略] 村方大鼓・大鼓台・幟

L. 西土井村若中矢台社参請書

[出展・引用：近世魚吹八幡神社関係資料／嘉永元年(1848)]

[記載されている風流概略] 矢台

M. 福井庄津宮山魚吹寺八幡宮神事行司定

[慶應3年(1867)]

[記載されている風流概略] 御迎提灯・段尻(ダンジリ)・屋台・花角力

N. 屋台順番記

[出展・引用：古文書(写)／明治10年(1877)]

[記載されている風流概略] 一番から二十一番

O. 中裁規約書

[出展・引用：古文書(写)／明治17年(1884)／個人蔵]

[記載されている風流概略] 屋台邨・壇尻邨

P. 奉願上口上

[出展・引用：近世魚吹八幡神社関係資料]

[記載されている内容] 社殿修復願

③湊神社関連

A. 氏神祭礼在来道具書上帳

[安政5年(1858)／湊神社 蔵]

[記載されている風流概略] 屋台(鍔金具「天井彩色龍也」・露盤・擬宝珠・幕「鯉の滝のぼり」
 「龍」・行列

④ 荒川神社関連

A. 町坪村寺社明細帳

[出展・引用：ふるさと荒川／安永4年(1775)]

【記載されている風流概略】 安永二年ヨリ、町坪村御輿太鼓(高サ五尺五寸・太鼓一尺八寸)・井口村御輿太鼓(屋根高サ六尺五寸・太鼓一尺九寸)・西脇村獅子頭・獅子台(長サ六尺幅三尺五寸)・玉手村御輿太鼓(屋根高サ五尺六寸・太鼓一尺七寸)・中地村御輿太鼓(屋根高サ六尺・太鼓一尺八寸)

⑤ 恵美酒宮天満神社関連

A. 神事控簿

[正徳4年(1714)～寛延3年(1759)／恵美酒宮天満神社 蔵]

【記載されている風流概略】 獅子・田楽・神輿太鼓・幣太鼓・子ども渡り物・子ども練り衆
鳥追い丹鶴・相撲練り物・子ども母衣負・丹鶴・紅笠独
鍮かさおどり・幣棚・幣神楽・狂言・花車

B. 御祭礼御幸記録帳

[弘化3年(1846)～明治6年(1873)／恵美酒宮天満神社 蔵]

【記載されている風流概略】 お面掛け・都倉町屋台

C. 御祭典御幸諸事簿

[明治9年(1876)～大正2年(1913)／恵美酒宮天満神社 蔵]

【記載されている風流概略】 家台・楽人道楽

⑥ 其の他

A. 差上申願書

[出展・引用：香寺町史 村の歴史 通史資料編(清瀬省吾家文書)／安永9年(1780)]

【記載されている内容】 姫路藩領田野組十ハヶ村から十六神社に対する祭礼につき願書

5. 参考－過去に当会が行った事業・活動(含:社団法人姫路青年会議所時代)

(1) 展示会 及 記念写真集・CD-ROM

①「匠の技－播州祭り屋台の彫刻展」

【開催期間】平成8年9月5日～9月23日＝17日間 【開催場所】姫路市書写の里・美術工芸館 【入場者数】7,861名	【実演展示】彫刻：二代目小河義保師(松本義廣一門) 【主 催】姫路市書写の里・美術工芸館 【企画協力】(社)姫路姫路青年会議所 地域文化委員会
---	--



1996年9月5日(木)～23日(祝)

姫路市書写の里・美術工芸館



意を彫り技を刻む

～匠の技－播州祭り屋台の彫刻展～ 記念写真集



意を彫り技を刻む

～匠の技－播州祭り屋台の彫刻展～ 記念写真集

存亡の岐路に立つ「播州彫刻」に焦点を当て、秀逸作品の保存と播州彫刻復興の願いを込め、(社)姫路青年会議所が企画。行政と民間との協働で初めて開かれた祭礼関連展示会。期間中の9月15日(祝)16日(振)には、それぞれ同館の新記録となる1,279名・1,286名の入館者を集めた。又、記念写真集「意を彫り技を刻む」をCD-ROM版と共に発行し絶大なる人気を博した。

②「播州祭り屋台－匠の技展」

	【開催期間】平成11年7月24日～9月23日＝52日間 【開催場所】姫路市書写の里・美術工芸館 【入場者数】17,084名 【実演展示】鍔金具：竹内雅泉師・彫刻：二代目小河義保師・刺繍：川村雅美師 【主 催】姫路市書写の里・美術工芸館 【協 力】屋台文化保存連絡会 (社)姫路青年会議所 郷土ひめじ創造委員会
--	--

播州の祭りを彩る屋台は、大工・彫刻師・鍔金具師・太鼓師・縫師・塗師等の匠の技を結集した総合芸術品と言える。超一流を求め続けて来た播州人の祭りに懸ける思いと、それに伝統の技で応えた「匠の心意気」とをご覧戴こうと、「ミ二屋台会館現る！」と称し開催されたシリーズ第2弾。

③「匠の技－播州祭り屋台刺しゅう展 ～美を極めた絹常の世界～」

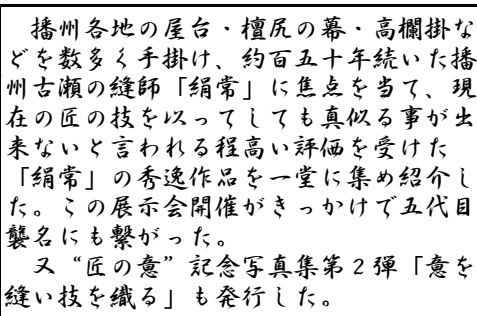
【開催期間】平成12年6月29日～8月31日＝開催54日間 【開催場所】姫路市書写の里・美術工芸館 【入場者数】12,713名	【主 催】姫路市書写の里・美術工芸館 【協 力】屋台文化保存連絡会 (社)姫路青年会議所 文化でまちを楽しむ委員会
--	---





意を縫い技を織る

「匠の技－播州祭り屋台刺しゅう展」記念写真集



意を縫い技を織る

「匠の技－播州祭り屋台刺しゅう展」記念写真集

播州各地の屋台・檀尻の幕・高欄掛などを数多く手掛け、約百五十年続いた播州古瀬の縫師「絹常」に焦点を当て、現在の匠の技を以ってしても真似る事が出来ないと言われる程高い評価を受けた「絹常」の秀逸作品を一堂に集め紹介した。この展示会開催がきっかけで五代目襲名にも繋がった。又「匠の意」記念写真集第2弾「意を縫い技を織る」も発行した。

④「祭礼図絵馬にみる屋台装飾展」

	【開催期間】平成14年9月6日～9月29日＝21日間 【開催場所】姫路市書写の里・美術工芸館 【入場者数】3,731名 【記念講演】(財)元興寺文化財研究所 山内章氏 【主催】姫路市書写の里・美術工芸館 【協力】屋台文化保存連絡会 (社)姫路青年会議所地域文化とコミュニティ創造委員会 江戸～大正時代までの祭礼図(絵馬・絵巻物等)と現存資料を通して屋台装飾の変遷の一端を探った。屋保連では将来の「播州屋台会館(仮称)」の中の重要な展示要素と云う位置付けから本展示会に協力した。又特別展示として、姫路市指定民俗文化財「神護丸図」を出展し、(社)姫路青年会議所が復元した岡絵馬の模写絵馬も併せて展示し、当時の民俗・習俗を写す鏡とも云える祭礼図絵馬の保存・修復の重要性を訴えかけた。
---	--

番外「ミニ屋台会館」

	【開催期間】平成16年6月5日～6月6日＝2日間 【開催場所】イーグレひめじ 【入場者数】3,614名 【主催】(社)姫路青年会議所 【協力】屋台文化保存連絡会 「播州屋台会館(仮称)早期建設提案書」の記述内容をより広く深く、市民の皆様知って戴き、会館建設の効果に対する理解を深めて戴こうと、ミニチュア屋台等を駆使して、提案書の内容を再現したもの。会場では20台の精巧なミニチュア屋台・壇尻に感嘆の声が上がると共に「これが実物屋台だったら凄い迫力だなぁ！是非会館を建設して欲しい」との意見が多く聞かれた。
---	--

⑤「匠の技－播州祭り屋台鍔金具展」

	【開催期間】平成17年9月17日～10月2日＝15日間 【開催場所】イーグレひめじ 【入場者数】10,181名 (社)日本青年会議所 第54回全国会員大会 姫路大会記念事業 【主催】(社)姫路青年会議所 【企画制作】屋台文化保存連絡会 彫刻・縫いの展示会に続き、播州祭り屋台三大装飾品に関する匠の技の情報発信・啓蒙事業の集大成として開催。現存している鍔金具の逸品を県民・市民に鑑賞して戴き、播州の固有文化であり、祭・屋台文化の美術工芸品としての素晴らしさを再認識戴いた。又「匠の意」記念写真集第3弾「意を打ち技を繋る」を発行し、これで三大装飾品の写真集が完結した。
---	---

⑥「匠の技－播州祭り屋台伝承展」

	【開催期間】平成20年4月24日～5月11日＝18日間 【開催場所】イーグレひめじ 【入場者数】13,222名 【実演展示】刺繍：川村定弘師／鍔金具：竹内雅泉師 彫刻：椿谷雅敏師・前田貴史師・大木光師 【主催】(社)姫路青年会議所【後援】姫路市 【企画制作】屋台文化保存連絡会 姫路市からの強い依頼により、全国各地より92万人もの来場者を集めた「姫路菓子博2008」で展示会を開催し、播州祭・屋台文化の素晴らしさを全国に情報発信した。これ迄開催した展示会への出展作の中から秀逸作品を選抜展示すると共に、その流れを承け継ぐ現代の職人の作品を実演も含め展示する事し、播州祭・屋台文化が現在にも伝承されている事を再認識戴いた。
---	--

⑦「技・職人展 ～播州屋台装飾に見る平清盛～」



【開催期間】平成24年6月30日～7月1日＝2日間
 【開催場所】姫路文学館 【入場者数】6,000名超
 【実演展示】刺繍：川村定弘師／鍔金具：竹内博之師
 彫刻：二代目小河義保・高場正良・前田貴史・大木光・棒谷雅敏各師
 【主催】(社)姫路青年会議所 【協力】屋台文化保存連絡会
 【後援】姫路市・姫路市教育委員会・NHK・神戸新聞社・朝日新聞社
 Kids FM KOBE・サンテレビジョン・WINK姫路ケーブルテレビ
 FM GENKI

平成24年(2012)のNHK大河ドラマで注目を集める平清盛を中心に、父・平忠盛を描いた「祇園林夜雨」から源頼朝が行った大軍事演習「富士の巻狩り」まで、源平の盛衰27場面を年代順に、彫刻・刺繍・鍔金具の名作50余点で辿る一大絵巻！
 又、屋台文化保存連絡会に寄贈されている実物屋台棟の鏡面を一面剥がし、初めて内部構造を展覧に供した。

⑧「祭・職人展2016 ～播州の祭りを創る職人たち～」



【開催期間】平成28年9月3日～4日＝2日間
 【開催場所】イーグレひめじ・大手前公園 【入場者数】4,000名超
 【実演展示】鍔金具：北角和久師・藤本博師・竹内博之師・谷口秀作師
 刺繍：川村定弘師
 彫刻：二代目小河義保・大西一生・中山龍雲・大木光
 高場正良・山下継浩・前田貴史・棒谷雅敏各師
 【主催】(公社)姫路青年会議所 【協力】屋台文化保存連絡会
 【後援】兵庫県中播磨県民センター・姫路市・姫路市教育委員会・神戸新聞社
 (公社)姫路観光コンベンションビューロー・朝日新聞社・サンテレビジョン
 Kids FM KOBE・ラジオ関西・WINK姫路ケーブルテレビ・FM GENKI

祭職人展2016実行委員会を組織し2日間に亘り開催した。三大装飾品(彫刻・刺繍・鍔金具)の実演と作品展示に加え、大手前公園では体験コーナーを設け、祭職人の技術・魅力に触れて戴いた。
 屋保連からは、寄贈・寄託品である浜の宮天満宮・須加「三代前水引幕(鳳凰・龍)」と、荒川神社・玉手の「木村四二郎作の擬宝珠(井上義照作の露盤共)」を出品すると共に、この年の春に完成した「構造開示型ミニチュア～播州匠の技屋台～」も展示した。

(2) 会報「まつり」



平成10年創刊で通巻20号を数える。展示会や、寄贈・寄託、祭りの神髄、ミニチュア屋台等、その年のピックアップの特集は勿論、入魂式・完成式の詳細タイムスケジュールまで、会員84地区を擁する屋保連でしか掲載出来ない内容！

平成13年、初めて神社の枠を超えて発行した画期的なポスター！神社毎に1基の代表写真を掲載。翌14年からは全会員地区の檀尻・屋台を掲載し、24年からは入魂式・完成式予定も併載。大好評を得ている！！

(3) 「播磨の祭り」ポスター



(4) ホームページ



平成12年9月9日開設！

「賑い」「体験」「匠」「文化財」「市民」「お土産」の6つの広場と「屋台文化保存連絡会の歩み」「寄贈・寄託情報」「屋保連ライブラリー」「企画展示室」の計10のアイテムからなり、写真3,943葉・動画33本をアップしており、容量521MBに及ぶ播州の祭りに関する最大サイト。アクセス数は300,000を超えている!!

(数字はいずれも平成29年12月31日現在)

(5) 特別番組『祭りの神髄』(姫路ケーブルテレビ(WINK)協働制作)

屋保連・姫路ケーブルテレビ(WINK) 協働制作 特別番組

『祭りの神髄』

放映年月	1月	2月	3月
平成24年	英賀神社 梯子獅子	魚吹八幡神社 大江島 太鼓隠し彫刻	松原八幡神社 豪鹿 闘突き
平成25年	浜の宮天満宮 播州彫刻と台場差し	湊神社 児嶋・地 伝統を引き継ぐ屋台	大塩天満宮 菅原道真公ゆかりの屋台装飾
平成26年	津田天満神社 練り棒の謎と一つの大発見	荒川神社 こだわり続けた鋳金具への想い	富船神社 秘伝・かみ眼鏡彫刻と限界フォーザ
平成27年	恵美酒宮天満神社 華麗な練りと受け継がれる屋台	中島天満宮 復活！そして飛躍!!	二之宮神社 中仁野 彫刻師・長谷川義秀
平成28年	生矢神社 神社縁起への誇り	才天満神社・菅原神社 園教寺鬼追いと室街道	魚吹八幡神社 植尻編 植尻村の矜持

「播州屋台会館(仮称)」の早期建設訴求の新機軸として、平成24年～28年に掛けて計15本を、姫路ケーブルテレビ(WINK)と協働制作。祭マニアでもなかなか知らない“コアな魅力・神髄”を紹介した。

また会員地区代表者(総代・自治会長16名)の“生の声”で早期建設を訴え大好評を博した！

(6) 市議会議員懇談会・行政懇談会

回	年/月/日	行政	市議	会員	合計	内 容
市議会議員懇談会 1	2004/6/6	—	22名	43名	65名	活動経緯再説明・提案書概略説明 議会質問に向けて
市議会議員懇談会 2	2004/11/21	—	6名	14名	20名	過去の市議会答弁分析 今後の行政との折衝の在り方
行政懇談会 1	2005/6/19	3名	1名	39名	43名	類似施設調査結果説明 今後の課題検討
市議会議員懇談会 3	2005/9/18	—	5名	33名	38名	課題解決提案・議会質問に向けて 三者の役割について
市議会議員懇談会 4	2007/8/26	—	13名	37名	50名	活動経緯・調査結果考察答申 9月議会質疑・協力体制

平成16年～19年に掛けて、市議会議員懇談会を4回開催し姫路市議会での関連質問に繋げ、行政当局に全国各地の同様9施設の調査に乗り出して戴いた。その結果を平成17年開催の行政懇談会に於いて、姫路市の担当官3名から、規模・展示概要・来館者数・入場料等、パワーポイントを使った説明を受けた。

(7) 寄贈・寄託

物件	神社	地区	寄贈・寄託先	年/月/日	寄贈	寄託	備考
1 水引幕	魚吹	丁	姫路市書写の里・美術工芸館	1999/12/10	○		
2 水引幕	御津・春日	伊津	姫路市書写の里・美術工芸館	2000/3/25		○	
3 屏	御津・春日	伊津	姫路市書写の里・美術工芸館	2000/3/25		○	
4 屏	御津・大年	加家	姫路市書写の里・美術工芸館	2000/10/22		H25返還	
5 屋台蔵跳板	浜の宮	宮	姫路市書写の里・美術工芸館	2000/10/25		○	
6 蒲団屋台雲板	魚吹	平松	姫路市書写の里・美術工芸館	2000/12/10	○		
7 脇掛受	魚吹	平松	姫路市書写の里・美術工芸館	2000/12/10	○		
8 二股伊達綱	富嶋	浜田南	姫路市書写の里・美術工芸館	2001/8/25		○	
9 屋台棟一式	魚吹	平松	屋台文化保存連絡会	2004/6/6	○		
10 紋(遠い縁)	恵美酒宮	東堀	屋台文化保存連絡会	2005/10/2	○		個人蔵
11 紋(菊)	魚吹	宮内	屋台文化保存連絡会	2005/10/2	○		
12 伊達綱(緑色/金)	御津・大年	加家	屋台文化保存連絡会	2006/10/3	○		
13 布団締め	明石/林中の町		屋台文化保存連絡会	2008/12/11	○		
14 屋提燈	明石/林中の町		屋台文化保存連絡会	2008/12/11	○		
15 水引幕	明石/林中の町		屋台文化保存連絡会	2008/12/11	○		
16 高欄掛	明石/林中の町		屋台文化保存連絡会	2008/12/11	○		
17 紋	松原八幡	東山	屋台文化保存連絡会	2009/7/26		H26入替	一昨返還中
18 露盤(擬宝珠共)	英賀	中浜	屋台文化保存連絡会	2009/7/26		○	
19 狹間	英賀	中浜	屋台文化保存連絡会	2009/7/26		○	
20 露盤	湊	磯	屋台文化保存連絡会	2009/8/4		○	
21 狹間	湊	磯	屋台文化保存連絡会	2009/8/4		○	
22 正角	湊	磯	屋台文化保存連絡会	2009/8/4		○	
23 乗子頭巾	湊	磯	屋台文化保存連絡会	2009/8/4		○	
24 水引幕	浜の宮	宮	屋台文化保存連絡会	2009/8/4		○	
25 乗子襦袢	浜の宮	宮	屋台文化保存連絡会	2009/8/4		○	
26 宮入御旅用朱傘	浜の宮	宮	屋台文化保存連絡会	2009/8/4		○	
27 伊達綱(栗皮色/金/銀縁取り)	湊	南山河	屋台文化保存連絡会	2009/11/3	○		
28 井筒端金具	湊	磯	屋台文化保存連絡会	2010/7/19		○	
29 棟地金具	湊	磯	屋台文化保存連絡会	2010/7/19		○	
30 水切役物金具	湊	磯	屋台文化保存連絡会	2010/7/19		○	
31 総才端金具(底面)	湊	磯	屋台文化保存連絡会	2010/7/19		○	
32 高欄小擬宝珠	湊	磯	屋台文化保存連絡会	2010/7/19		○	
33 男柱地金具	湊	磯	屋台文化保存連絡会	2010/7/19		○	
34 御迎提燈	湊	磯	屋台文化保存連絡会	2010/7/19		○	
35 拍子木	湊	磯	屋台文化保存連絡会	2010/7/19		○	
36 水引幕(図柄:鳳凰・龍)	浜の宮	須加	屋台文化保存連絡会	2010/7/21		○	
37 水引幕(図柄:蜀江)	浜の宮	須加	屋台文化保存連絡会	2010/7/21		○	
38 乗子襦袢(染抜:右三階松)	浜の宮	須加	屋台文化保存連絡会	2010/7/21		○	
39 乗子襦袢(刺繍:左三階松)	浜の宮	須加	屋台文化保存連絡会	2010/7/21		○	
40 乗子襦袢(染抜:左三階松/頭巾共)	浜の宮	須加	屋台文化保存連絡会	2010/7/21		○	
41 儀(「梅鉢紋」「北陽邑」)	大塩	北陽	屋台文化保存連絡会	2011/3/5	○		
42 栗山屋台新調記念誌	生矢	栗山町	屋台文化保存連絡会	2011/8/10	○		
43 さいてん新報(総括号)	生矢	栗山町	屋台文化保存連絡会	2011/8/10	○		
44 法被(交渉委員用)	浜の宮	宮	屋台文化保存連絡会	2011/10/12	○		
45 長松の屋台史 四代目屋台新調記念	魚吹	長松	屋台文化保存連絡会	2011/10/21	○		
46 水引幕(富士の巻持/絹紫三代目紫三郎)	香寺・大蔵	岩部	屋台文化保存連絡会	2012/4/28		○	
47 法被(交渉委員用)	浜の宮	須加	屋台文化保存連絡会	2012/7/2	○		
48 須加町屋台新調記録DVD	浜の宮	須加	屋台文化保存連絡会	2012/7/2	○		
49 乗子襦袢(刺繍:左三階松/波に千鳥/頭巾共)	浜の宮	須加	屋台文化保存連絡会	2012/7/2		○	
50 大江島屋台 平成の大改修 記念誌	魚吹	大江島	屋台文化保存連絡会	2012/9/8	○		
51 魚吹八幡神社氏子 西土井の秋祭り見聞記	魚吹	西土井	屋台文化保存連絡会	2013/9/26	○		
52 伊達綱(白色/金)	津田	加茂	屋台文化保存連絡会	2013/12/14	○		
53 乗子襦袢(刺繍:左三階松/頭巾共)	浜の宮	須加	屋台文化保存連絡会	2015/2/10		○	
54 擬宝珠(S21/木村円二郎)	荒川	玉手	屋台文化保存連絡会	2015/5/23	○		
55 露盤(阿吽の龍/伝 井上義照)	荒川	玉手	屋台文化保存連絡会	2015/5/23	○		
56 小坂村史〜屋台制作記録Blu-ray	菅原	小坂	屋台文化保存連絡会	2015/9/1	○		
57 亀山屋台今昔物語(冊子)	生矢	亀山	屋台文化保存連絡会	2015/9/5	○		

一例紹介

将来の「播州屋台会館(仮称)」建設に向けた、祭・屋台文化の現物保存の実践事業として、平成11年より寄贈・寄託支援事業を開始し、総計55件の寄贈・寄託を成立させた。

現在、民間施設で預かっているが、将来の散逸を防ぎ、また蒐集・保存を進展させる為にも「播州屋台会館(仮称)」と云う公共施設での永久保存が急務である。

尚、全ての物件を会館建設が成った場合には、弊会より会館へ【再寄贈・寄託】する事としている。



平成27年5月23日、屋保連に【寄贈】された、会員地区である荒川神社・玉手/擬宝珠&露盤。

擬宝珠は、昭和21年に鍔金具の名工「カナキ」木村円二郎により製作されたもので、伏鉢の隠れた部分の上段には縦書き6行で「小野定次/佐太郎/政一/昭和二十一年/十月/寄進者」

下段には横書き3行で「細工人/姫路市/木村円二郎」と、寄進者・製作年・職名などが刻まれていた。

また露盤は、二代目松本義廣の弟子である井上義照作と伝えられるもので図柄は阿吽の龍。

(8) 播州飾磨彫刻師 故堤義法師 【寄贈・寄託】

①下絵

屋保連会員地区(順不同)		会員地区以外 (順不同)		
魚吹八幡神社	／津市場	狹間×2・付木×1・啗×1	谷	狹間×1
中島天満宮	／中島	狹間×1	安田	人物×1
魚吹八幡神社	／熊見	啗×1	上山	狹間×2
大塩天満宮	／北脇	露盤×1	中井	狹間×1
魚吹八幡神社	／余子濱	露盤×1	不詳	子供屋台狹間×1
魚吹八幡神社	／長松	総才端鏡面×4	中江	狹間×1
牛矢神社	／栗山	狹間×1	伊保崎	狹間×1
恵美酒宮天満神社	／玉地	狹間×1	芝原	狹間×1
浜の宮天満宮	／須加	脇持受×1・狹間×3	南山田	狹間×1
浜の宮天満宮	／宮	狹間×2	鍛冶	狹間×1
魚吹八幡神社	／西十井	啗×1・狹間×2	東大貴	狹間×4
津田天満神社	／横	狹間×4	山田	露盤×4(1)
魚吹八幡神社	／大江島	狹間×4・露盤×1・啗×1	高朝田	狹間×3
魚吹八幡神社	／宮田	狹間×1	赤穂町	狹間×1
魚吹八幡神社	／坂上	狹間×4	西川辺	狹間×4

一例紹介

平成17年6月、堤家から屋保連事務局に1本の電話が掛ってきた。「おじいさん(義法師)の遺品を整理していたら、道具などが出て来た。廃棄しようと思うのだが、もし良ければ一度見に来ませんか？」よくぞ電話を掛けて下さった！この一本の電話がなければ、貴重な地域固有文化財が灰になるところであった。遺品の中には、堤師が使っていた鑿等の道具類やそれを納める道具箱、彫刻の構図の参考にしたと思われる書籍類の他、何と言っても圧巻は数百枚にも及ぶ彫刻の下絵！(屋台・檀尻彫刻の他、神社仏閣彫刻のものも多数)があった。まさに播州祭・屋台文化の宝庫である。



(左)は、魚吹八幡神社／坂上「本能寺の変」の下絵。(右)はその狹間(所有：魚吹八幡神社)

②道具類



←当会が預かっている、故堤義法師の道具類

故堤義法師が狹間・→露盤等を彫るのに参考にした文献絵回。



(9) 講習会

①「存亡の岐路に立つ播州彫刻」

【開催】平成8年6月23日(日) 【講師】播州屋台愛珠会 粕谷 宗関 氏

かつては一世を風靡し、全国にその名を轟かせた播州彫刻の系譜が、地元播州に於いては細い枝を除いて途絶えている事を憂い、播州祭り屋台研究の第一人者である粕谷宗関氏に講演戴いた。我々が行った記念すべき最初の播州祭・屋台文化保存・継承事業。

②「祭りと漆の意外な関係 ～屋台の手入れと裏話～」

【開催】平成26年6月29日(日) 【講師】塗師 砂川 隆 師



砂川師自身の専門である塗り・金箔の話は勿論、職人の繋がりを活かしての、彫刻・縫い・鍍金具・太鼓に到るまで、ちょっとした修復の仕方や保管の方法などを、サブタイトルの通り裏話を交え、88ショットにも及ぶパワーポイントで10時間に亘って講演戴いた。

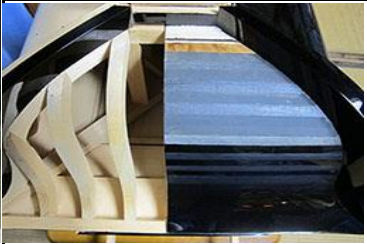
③「「祭・技 語り部の会2017」

【開催】平成29年8月5日(土)・6日(日) 【講師】<播磨学研究所副所長>小栗栖健治 氏
<元姫路科学館館長> 家永 善文 氏

播州秋祭りの魅力を語り合う場を創りたいとの趣旨で、中世の祭りの形から播州秋祭りの地域特有の魅力を語って戴いた。

(10) 公益財団法人姫路市文化国際交流財団助成事業 構造開示型ミニチュア ～ 播州匠の技屋台 ～

御協力戴いた職人方	
本 体：(宮 殿 師)奥居 隆夫 師	彫 刻：(彫 刻 師)大木 光 師
漆塗り：(塗 師)砂川 隆 師	前田 貴史 師
鍍金具：(鍍金具師)北角 和久 師	棒谷 正敏 師
縫い物：(縫 師)川村 定弘 師	高場 正良 師
太 鼓： ちょうさ屋	木 取：(大 ヌ)横野 辰徳 師
棟の内部構造	兵庫県播磨高等学校での授業風景


平成28年3月1日完成！実物屋台の4分の1と云う、最大級のこのミニチュア製作に当っては、宮殿師・彫刻師・縫師・鍍金具師・塗師・太鼓師など、数多くの職人さんのご協力を戴いた。

姫路市内外の幼稚園・小中学校及び高等学校等をはじめ教育機関、或いは連合自治会・単位自治会等が行う郷土史教育・展示会等、各種催事に貸出し、青少年健全育成と地域固有文化継承とに資する事を目的としている。

これまでの貸出実績は合計9件・23日間による。

テキストDVD



6. おわりに

今回は、所謂「姫路城ミュージアム(仮称)」に『播州屋台会館(仮称)』を一定以上の規模をもって内設・併設する事を目的に「姫路城・姫路藩等所縁 屋台装飾 調査報告書」を取り纏めたが、この内容は、たとえ「姫路城ミュージアム(仮称)」内であろうとなかろうと、播州祭・屋台文化の貴重な歴史・諸元を綴ったものであり、どこに『播州屋台会館(仮称)』が建設されても、重要な展示諸元・要素となるものである。

最後になるが「『播州屋台会館(仮称)』早期建設 提案書」を提出してから既に15年が過ぎた。もう早期とは言えない。行政には一日も早く“109,442名の市民の声”に添えて戴きたい。